

川名里山レンジャー隊に環境教育活動の実施を依頼する担当者の意識
—神奈川県藤沢市川名緑地の保全を目的とした団体の活動—
**Awareness of the person in charge of requesting the Kawana Satoyama Ranger
organization to implement environmental education activities in the green space
preservation of Fujisawa, Kanagawa Prefecture, Japan**

早川尚吾*¹・杉浦克明*²

Shogo HAYAKAWA *¹, Katsuaki SUGIURA *²

*1 日本大学大学院生物資源科学研究科

Graduate School of Bioresource Sciences, Nihon University, Fujisawa, Kanagawa 252-0880, Japan

*2 日本大学生物資源科学部

College of Bioresource Sciences, Nihon University, Fujisawa, Kanagawa 252-0880, Japan

要旨：道路開通計画のある藤沢市の川名緑地保全を目的とした学生主体のボランティア団体に川名里山レンジャー隊がある。その活動の一つに、主に子どもを対象とした環境教育活動が展開されている。環境教育活動は公募によって実施しているものもあるが、小学校、公民館、子ども会からは直接依頼を受けて実施している。そこで、本研究の目的は、レンジャー隊が実施する環境教育に対する依頼担当者の意識を明らかにすることである。2016年度に依頼してきた小学校の教員、公民館担当者、こども会役員の計14名を対象にアンケート調査を実施した。その結果、川名里山レンジャー隊に求めていることは、若い世代による身近な自然を有効活用した様々な体験を児童に対して行うことであった。また、環境教育活動を行っている学生に対しては、依頼者や児童からも好評であった。レンジャー隊への活動に対する要望としては、安全面の充実や活動内容の確認が求められており、各団体との連携を図っていく必要がある。さらに、道路問題など地域の自然が抱える課題について、関心の薄い担当者もいることが明らかとなった。

キーワード：藤沢市、川名清水谷戸、環境教育、谷戸、川名里山レンジャー隊

Abstract: The Kawana Satoyama Rangers is a student-based volunteer organization that aims to preserve the Kawana green space in Fujisawa, Kanagawa. Conducting children's environmental education activities is one of Kawana Satoyama Rangers' activities. The implementation of environmental education activities is based on public offering and direct requests from an elementary school, a community center, and a children's association. The purpose of this study investigates awareness of the person in charge of requesting to implement the rangers' environmental education. A questionnaire survey was conducted with 14 participants comprising elementary school teachers, community center staffs, children's community staffs. The results show that the rangers were required to implement various experiences utilizing nearby nature by university students. Students of implementing environmental education was favorably received by children and the persons in charge of requesting. Requests for the rangers include enhancement of safety aspects and arrangements of prior activities. Therefore, it is necessary to strengthen cooperation with each group. Some persons in charge of requesting are not interested in the issues of the local nature such as the road development plan and soon.

Keywords: Fujisawa, Kawana-shimizu valley (Yato), environmental education, valley (Yato), Kawana Satoyama Renger

I はじめに

神奈川県藤沢市は、県の中央南部に位置する人口約43万人の都市(5)であり、市域を南北に貫流する引地川や境川によって形成された谷戸が多く存在している。藤沢市では、川名清水谷戸、石川丸山谷戸、遠藤笹窪谷戸を三大谷戸としている(2)。これらの保全については、「藤沢市市政運営の総合指針」をはじめ、「藤沢市緑の基本計画

と「藤沢市都市マスタープラン」において、重点施策として位置づけられている(4)。

三大谷戸の中でも最も南に位置する川名清水谷戸には、1957年より都市計画道路横浜藤沢線の道路計画がある。当時は地上を通過する予定であったが緑地保全を目的に、地下式への変更が検討されている(3)。川名清水谷戸は藤沢駅の南東約1.2kmに位置し、面積は17haである。

隣接の緑地を含めると面積は約32haあり、この地域を川名緑地と呼んでいる(1)。

この川名緑地の保全を目的としたボランティア団体に川名里山レンジャー隊がある(以下、レンジャー隊)。レンジャー隊は、日本大学生物資源科学部のサークルが団体入会の窓口になっている。そのため、大学生が多く所属している。この団体の活動の一つとして、1999年より環境教育活動が展開されている(8)。現在、環境教育活動は公募によって実施しているものもあるが、小学校、公民館、子ども会からは直接依頼を受けて実施している。レンジャー隊の環境教育活動を通称「谷戸探検」と呼んでいる。それは、主に児童を対象とし、ターザン、工作体験等の実体験を通して川名の自然を体感してもらう活動である(6)。

環境教育の実施に関する課題には、実施主体のみの実施には限界があり、地域の連携や協力の必要性、専門家やスタッフの確保や育成等の問題が示唆されている(9)。そのため、小学校、市民、大学生の連携によって実施される環境教育活動で依頼者が求めることを明らかにすることは、実施団体として留意すべき点が見えてくる可能性がある。

そこで、本研究の目的は、レンジャー隊に依頼をしてきた団体の担当者を対象に、教育プログラムを依頼する目的やプログラムに対する要望等について分析し、レンジャー隊や川名緑地に対する依頼者の意識を明らかにすることとした。

II 研究対象

レンジャー隊の事務局は、小学校、公民館、子ども会、県や市との連絡等の事務的な中心業務を行っており、レンジャー隊の活動場所の地権者でもある。また、谷戸探検を実施する上で、インストラクターの招集や準備等はレンジャー隊の中の谷戸探検担当の役員が行っている。そのため、事務局と隊員とが連携を図られる実施体制を整えている。谷戸探検の基本的な内容は、川名清水谷戸を中心とした散策に加え、一部の団体には、教室や市民の家などの室内での工作体験を行うこともある。2016年度の谷戸探検の実施月日は、公民館は5月14日(土)、小学校は9月14日(水)、子ども会は11月6日(日)であった。依頼担当の内訳は、小学校の教員が5名、公民館担当者が3名、子ども会役員が6名の計14名である。

III 方法

依頼者がレンジャー隊の環境教育活動に求めていることを明らかにするために、依頼理由、実施目的、活動

や川名緑地の印象およびレンジャー隊に対する希望について、自由回答のアンケート調査を実施した。アンケートの詳細については表-1に示す。

表-1. アンケート内容の詳細

Table 1 Questionnaire details

質問1. 谷戸探検プログラムを知った理由
質問2. 谷戸探検プログラムの実施を依頼した理由
質問3. 谷戸探検を実施する目的(ねらい)
質問4. 谷戸探検実施時間
質問5. 大学生が主体となる印象
質問6. 谷戸探検についてレンジャー隊に希望すること
質問7. あなたが考える谷戸探検の魅力
質問8. 依頼者から見た谷戸探検参加者の反応
質問9. 川名緑地道路計画に関する意見
質問10. 質問9の理由

IV 結果

各質問の回答結果を表2から表8に示す。ただし、質問1, 4, 9の結果は、表は用いず本文のみの記載である。結果は自由回答の記述内容を集計した数となっている。

各団体の依頼者が谷戸探検プログラムを知った理由(質問1)は、「代々の総合学習の行事として」、「子どもが学校行事に参加したから」といった小学校を通して知るというきっかけが多かった。公民館や子ども会の担当者の多くは、所属施設の事業を契機に知るようになっている。また、公募制の谷戸探検に親子で参加したことをき

表-2. 谷戸探検を実施する理由

Table 2 Reasons of implementation of environmental education activities

	公民館 担当者	小学校 教員	子ども会 役員
児童の身近な自然認知のため	1	2	1
身近な自然の有効活用	1	2	
様々な自然体験	1	1	
行事としての取り組み		1	1
児童に人気の活動のため			5
野外活動への機会を得る			1

表-3. 谷戸探検を実施する目的

Table 3 Purpose of implementation of environmental education activities

	公民館 担当者	小学校 教員	子ども会 役員
自然との触れ合いや体験	3	2	6
児童の身近な自然認知のため	2	1	3
楽しんでもらうため		1	4
自然に対する感性の養い		1	2
共存の視野を拡大	1		
規範意識の養い		1	
集団行動の養い			2

っかけに知ったという意見も見られた。公民館および小学校が谷戸探検プログラムを実施する理由(質問 2)については、表 - 2 に示した通り、身近な自然の有効活用や自然を知ってもらいたいという回答が多かった。その他に、子ども会では児童に人気という回答が目立った。

谷戸探検を実施する目的(質問 3)は、表 - 3 を見ると、各団体とも身近な自然との触れあいや体験が多く挙げられており、質問 2 と同様の回答傾向であった。子ども会では、「集団行動意識の養い」や「自然に対する感性の養い」といった回答が見られた。実施時間(質問 4)に関しては、各団体それぞれ「公民館の年間プログラムの一つ」、「小学校の総合の授業」、「子ども会の秋のお楽しみ会」との回答であった。

大学生主体の印象(質問 5)は、どの団体からも、若い世代は頼もしく地域の活性化につながるという回答であった(表 - 4)。また、大学生に対して、「活気がある」、「親しみやすい」といった良い印象を持った回答が多かった。その一方で、小学校からの回答には「子どもの安全を第一」に考えたい、子ども会からの回答では「大人も見習ってサポート」すべきとの回答も見られた。

谷戸探検についてレンジャー隊への要望(質問 6)に関しては、表 - 5 に示す。公民館は、「広報の推進」、「谷戸以外の活動に参加してほしい」を挙げており、子ども会は「他の施設での実施希望」との回答であった。一方、小学校は「安全面の充実」や児童の学習のためにも「説明の際の本の準備」といった回答であった。

依頼者が考える谷戸探検の魅力(質問 7)は、「身近な自然が残っていること」や「身近で自然体験が可能」といった回答が見られた(表 - 6)。他には、「非日常的な感覚を味わえる」、「大学生がいる」ことも理由として挙げられた。表に示せなかった意見の中には、小学校では環境教育活動でなければ自然に触れ合えないとの回答や公民館ではこんなに自然があるなんて知らずにいたとの回答が見られた。

児童の反応(質問 8)は、全体的に好意的な印象であった(表 - 7)。加えて、子ども会では学年別の班分けが好評であり、また小学校では川名清水谷戸に初めて触れた子がクラスに約 3 割いたとの回答が見られた。

川名緑地の道路に関する意見は、「道路開通反対」と「どちらともいえない」の両方が 7 名ずつであり、道路開通に関する意見(質問 9)について表 - 8 に示した。道路開通反対を回答した依頼者からは、自然から学ぶことは多く貴重な場所である、といった意見や次世代への自然継承といった理由が挙げられた。一方で、どちらともいえないと回答した依頼者は、渋滞という面や緊急時大

表 - 4. 大学生が主体となる印象

Table 4 Impression of college students

	公民館 担当者	小学校 教員	子ども会 役員
大学生との関わりが持てる	1	1	
大学生が大勢参加, 引率 頼もしい	1	2	
若い世代による地域活性化 やる気, 活気がある	1	1	1
細かいサポート, 的確な指示 親しみやすい	1	1	2
卒業生も活動参加	1		3
大人も見習ってサポート			1
子どもの安全第一		1	
今後も活動の継続希望		1	
動植物の知識がある		1	

表 - 5. 谷戸探検に関するレンジャー隊への要望

Table 5 Request for the rangers in environmental education activities

	公民館 担当者	小学校 教員	子ども会 役員
谷戸以外の活動にも参加希望	1		
広報の推進	1		
他の施設での実施希望			1
谷戸探検の実施内容の確認		1	
自然体験を沢山実施			1
活動の継続			1
安全面の充実		1	
説明の際の本の準備		1	

表 - 6. 依頼者が考える谷戸探検の魅力

Table 6 Attractive of environmental education

	公民館 担当者	小学校 教員	子ども会 役員
自然が残っていること	3	1	1
身近で自然体験が可能		3	2
様々な学習を直接行える		1	1
非日常的な感覚	1		2
大学生がいること	1		1
様々な発見がある			1

表 - 7. 依頼者から見た子どもたちの反応

Table 7 Children reaction after environmental education activities

	公民館 担当者	小学校 教員	子ども会 役員
喜んだり楽しんだりしていた	1	2	5
貴重, 様々な体験が出来た	3		1
意欲的に取り組んでいた	1		1
谷戸探検を楽しみにしていた		2	
クラスの約 3 割は谷戸初めて		1	
学習に必要な気付きを得た		1	
他の活動にも参加したい			1
学年別の班分けで満足度高い			2

い車が入れないといった理由が挙げられた。双方の意見の中には、道路開通の必要性や計画が分からないといったものが見られた。

表 - 8. 道路開通に関する意見
Table 8 Opinions on road opening

	公民館 担当者	小学校 教員	子ども会 役員
道路開通理由を知らない		1	1
藤沢周辺の渋滞解消で必要		1	
川名道路は数十年前からの話		1	
現状では大きい車が入れない			1
学習場として必要	1		1
次世代に残す、継承すべき		1	1
壊したら戻せない	1		
生態系が壊される		1	
道路を作る必要性が不明			1

V 考察

本研究の結果から、川名里山レンジャー隊が求められていることは、身近な自然を活用した様々な体験を若い世代によって実施することであり、児童が自然に触れ合う機会が少ないことと世代間交流がないことが要因として考えられる。そのため、実体験をテーマに活動しているレンジャー隊は、大学生が大勢参加していることや引率をしているため、環境教育プログラムを依頼しやすい団体である可能性が高い。また谷戸探検は、各団体の事業や小学校の授業の一環としてすでに実施されており、地域に根付いた活動になっているといえる。

環境教育の実施において、施設や人材の確保が求められているが(7)、レンジャー隊の環境教育活動は、川名清水谷戸を長年活動拠点とし、大学サークルとの関わりがあるため、実施における施設と人材確保を比較的容易にしている。また、大学生主体で行う環境教育活動に求められていることは、依頼者の要望にも柔軟に対応できるプログラム、大人数への対応、簡単な依頼手続、依頼元の近隣での実施、インストラクターの親しみやすさの5つとされている(10)が、レンジャー隊の活動はこれらの条件を満たしている。さらに、発達段階に応じた環境教育の充実が求められている(9)が、レンジャー隊は学年別の班分けを行い依頼者の満足度も高いため、プログラム内容等工夫しながら実施しているといえる。

レンジャー隊への活動に対する要望としては、小学校から安全面の充実や活動内容の事前の確認が求められており、小学校との連携をより図っていく必要があるだろう。子ども会からは、大人も大学生を見習ってサポートすべきとの意見もあり、大人の参画を促進する対策も検討すべきである。

依頼者側から広報や活動の継続や拡大の希望が求められているが、これ以上の拡大はレンジャー隊への負担増になり、レンジャー隊の活動の質を落とす可能性があり実現は難しい。

依頼担当者の中には道路問題など地域の自然が抱える課題について関心がない人もおり、今後担当者に向けた環境教育実施や、児童生徒と直接接する機会の多い小学校の教諭等を対象とした環境教育実施も検討する必要があるだろう。

引用文献

- (1) 有賀正義・大谷房江・岸一弘・木平勇吉・野村順治・津邦子編著 (2016) 川名自然フォーラム 10周年記念誌 川名清水谷戸の自然. 川名自然フォーラム
- (2) 藤沢市 (2011) 藤沢市緑の基本計画.
<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/midori/machizukuri/kanryo/shizenhogo/kihonkekaku.html>(2016年6月29日参照)
- (3) 藤沢市 (2014) 都市計画道路横浜藤沢線.
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4866/p374955.html>(2016年10月25日参照)
- (4) 藤沢市 (2017) 藤沢市環境基本計画.
<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kankyou-s/machizukuri/kankyo/kekaku/kekakukaite.html>(2017年10月7日参照)
- (5) 藤沢市 (2017) 数値でみる藤沢市の概要.
<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/bunsho/shise/gaiyo/shokai/gaiyo.html>(2017年10月10日参照)
- (6) 早川尚吾・杉浦克明 (2017) 緑地開発計画から生まれた環境教育活動の展開過程—神奈川県川名里山レンジャー隊の活動—. 関東森林研究 68 : 81-84
- (7) 比屋根哲 (2003) 森林環境教育(森林計画学. 木平勇吉編). 朝倉書店, 東京 : 204-222
- (8) 川名里山レンジャー隊 (2016) All about 川名里山レンジャー隊.
<http://www.rangers.bz/ranger/allabout5.html>(2017年10月31日参照)
- (9) 杉浦克明・吉岡拓如・井上公基 (2012) 森林環境教育の実施団体に対して要求される事項の検討-日本大学における森林環境教育の実践から. 森林計画誌 45(2):33-41
- (10) 杉浦克明(2015)発達段階に応じた森林環境教育の実施の必要性. 日林誌 97: 107-114